



「三本の矢」の強さ

～温もりに満ちた学校へ～



校長室だより 10月号
2024. 10. 24
<不撓不屈の芦中生>
・思いやりと温かな心
・言葉で伝え心で聴く
・自ら主体的に行動

「残り2か月」

10月も半ばを過ぎ、令和6年度も後半戦に入っています。そんな中、いろいろな場面で「残り2か月」という言葉が使われています。月例集会や生徒総会で私からも話しましたが、この「残り2か月」は、2学期が終わるまでの期間を指すために使われているわけではありません。

もちろん、暦の上では2か月後は2学期の終業式が行われる頃です。しかし、年が変わって3学期が始まると、それはもう次の学年の0学期の始まりになります。だから、この「残り2か月」は、2学期の残り時間という意味ではなく、名実ともに今の学年にふさわしい姿になるまでのタイムリミットという意味になります。また、別の言い方をすると、2か月が過ぎると、次の学年の準備が始まるということです。これは3年生にも当てはまることです。進路実現の取り組みをしながら、芦城中学校を卒業して社会に出るための準備期間に入るということです。



成長する心

では、あらためて「残り2か月」となった今、みなさん自身は、そして、みなさんの周りの状況はどうですか？各学年にふさわしい姿に近づいていますか？時間は止まってくれませんし、後戻りもできません。自分を見つめ、どこかで区切りをつけて、

新たな一歩を踏み出すことが必要です。自分一人では不安があるようなら、仲間とともに、声を掛け合い、支え合いながら歩みを進めましょう。なりたい姿や、ならなければならない姿を目指して、「残り2か月」を過ごしてください。挽回できるチャンスを失わないようにするためにも、正しい判断ができるように、自分の『心』を成長させていきましょう。



運動会の学びを文化祭へ

先月行われた運動会。みなさんの頑張りによって素晴らしいものになりました。



みなさんは、それぞれの立場からお互いを思いやる気持ちや、真剣な呼びかけに真剣に答えようとする気持ちなど、集団として成長するための大切なことをたくさん学ぶことができましたね。閉会式が終わったときには運動会から学んだことが自然と身についたようです。みんなで後片付けをしているときに聞こえてきた言葉を紹介します。

「これ片付けよう。だれか手伝って！」

「それ手伝わせて。」

「それ危くないか？気をつけて。」

「先にこっちやろう。俺も手伝うし。」

文化祭もとても大切な行事です。お互いを理解し合い、思いやりの気持ちをもって素晴らしい文化祭を創りましょう！